



—東地中海地域ニュース—

レバノン：サアド・ハリリー首相のインタビュー発言

(7日付現地各紙)

7日付現地各紙は、6日付アッシュアルク・アルアウサト紙に掲載されたサアド・ハリリー首相へのインタビューにおける同首相の発言について報じた。概要は以下のとおり。

1. シリア・レバノン関係

(1) シリア・レバノン関係は歴史的関係であり、我々は兄弟である。レバノンの新政権発足後、シリアとは新たなページが開かれた。この二国間関係において、我々は現実的になり、過ちを繰り返さないためにも過去を評価しなくてはならない。我々は、シリアとの関係において我々が犯した過ちについて評価を行った。我々はラフィーク・ハリリー一元首相暗殺についてシリアを非難したが、これは政治的なものであり、もはや嫌疑は終わった。今やこの件に関しては裁判所が設置されている。

(2) 3・14グループの他の同盟者も、各国との間でこのような良い関係を築くことを奨励してくれている。今日我々は、バッシュアール・アサド大統領と共に、透明性の高い二国間関係を有していることに安心している。自分（「ハ」首相）は、シリアに行くとき、同胞の国へ行くように感じる。自分との関係で問題があった国に行くとは感じない。

2. レバノン特別法廷（STL）

(1)（偽証を行った証人について）捜査を惑わせ、レバノン・シリア関係や遺族を傷つけた者達がいる。我々は、レバノンで本件を法的観点から取り扱う。

(2) STLの手続きは、早急すぎた政治的嫌疑とは関係がない。STLは、証拠のみに基づいて検察、弁護等周知の法的手続きを行う。

3. その他

レバノンと地域の安定のためにアブドッラー・サウジ国王が果たしている役割を賞賛する。先のレバノン・シリア・サウジ3首脳会談等、アブドッラー国王のイニシアティブは地域の安定に大きく貢献している。